

昭和26年2月

ル」に連結して「キモグラフィオン」上の煤煙紙に子宮の収縮状態を画かせ、実験終了後は附表の様に水壓計に連結して収縮曲線の目盛を記入するものである。通水器の長さ22 cm, 内径2.2 mm, 硝子管の長さ29 cm, 内径1.2 mm, 「タンブル」上面直徑3.0 cm, 容積7.0 ccである。この方法で行うものは卵管炎其他の原因で兩側卵管不通の非妊娠子宮及び人工妊娠中絶不妊手術を行つた産褥子宮について行うもので、妊娠子宮については別に報告する裝置によつて子宮の「トーネス」に関する実験的研究を行うものである。本研究によつて得た結果は次の通りである。尙お現在迄61例の実験を行つて居るが感染其他の副作用を起した例は1例もない。

A 非妊娠子宮一本法は月經の周期による差、發育不全子宮と正常子宮の差異を曲線に1目に明示する程には敏感ではないが、月經後約1週間位の間は子宮収縮が少し強い事を示し、卵胞ホルモン注射に依つて著明に子宮の「トーネス」を增强し、又發育不全子宮にホルモン療法を行ふ事により子宮の「トーネス」を高める事を證明して居る。ホルモン注射に依る「トーネス」の差はアトニン注射に對する収縮によつて判定したものである。

B 産褥子宮一人工中絶不妊手術々後3~7日に主に行ひ次の結果を得た。子宮収縮剤は市販の物が多數あるが之に依る収縮状態を一目に示す事が出来る。即ち薬剤の效力判定にも使用出来るものである。

脳下垂体後葉製剤はアトニンが著明な效力を持ちビツイトリノン(U.S.A.)に少し勝るものであり他の製剤は之より劣つて居る事を示して居る。

麥角剤は特に著明な収縮を示すものは無いがライゴスチンが少し勝つて居る。

## 6. 産婦人科領域に於けるフィラリア

### (パンクロフト)症に就いて

(鹿児島大) 前田末男

鹿児島地方の風土病とも思推せられる所謂フィラリア(パンクロフト)症と産婦人科學的關係(例之妊娠力、分娩、産褥等)を探究する目的を以て

A 孑蟲を検索し統計的觀察を試みたるに、(1)其浸潤度は南方離島地區が最も強く、最高20%を示し、其男女比は女性に多く發現し、年齢は20代に最も多く。而して(2)其症狀發現は殆んど全例に熱發作を以てし、發作回數を重ねるにつれ重症症狀に移行するようになる。(3)初經は對照に比し平均約2年9カ月遲延し、閉經は平均約3年2カ月短縮するが、月經周期、持續經過、量等に

は著差は認められない。従つて(4)受胎年數に於いては平均約7年短縮するが、然も本症患者の妊娠受胎回數は健常の者に比し2×多い點よりして本症患者の受胎妊娠力は亢進するものと様である。尙(5)妊娠、産褥時に屢々熱發作(76%)並に乳糜血尿(30%)が認められ、特に誘發、障礙を招來し易い。(6)児の發育狀態には影響を認められない。

B 白鼠腹腔内に仔蟲並に陰囊水滌過液注入せる場合に於いては、對照例(生理的食鹽水注入)の周期平均8.1日に比し、5.8~6.3日で則ち短縮し、且つ發情期間の延長(0.5~0.3日)が認められた。

## 7. 女子性器結核症573例の臨牀統計的研究

(東北大) 貴家寛而、山口龍二、木村金雄

最近10年間(1941~1950)下記の種々の方法により診斷した本症は573例で、其の中手術により初めて發見せる者39例、剖檢により發見せるもの2例があつた。他は總て外來入院中に組織鏡検、腔分泌物又は月經血培養により決定した。

發見年齢は最低16歳最高63歳で、21~25歳(24.0%)26~30歳(34.5%)で30歳以下が60.4%をしめる。未婚者7.8%、不妊者61.2%で經產では1回經產が最も多く(10.6%)

結核性既往症としては肋膜炎36.5%、腹膜炎14.5%、肋腹膜炎13.4%、肺結核9.7%、腎結核2.7%、既往症なき者21.0%である。

主訴は下腹痛35.0%、不妊31.9%、帶下16.9%、月經異常14.3%、腰痛11.6%、無月經10.9%、出血9%で、内診上鷄卵大~鷄卵大の附屬器腫瘤を觸れるもの29.3%指大の腫瘤23.0%、子宮癒着後傾13.0%、子宮小13.0%子宮肥大12.0%、著變なき者13.7%で、外來診斷は慢性子宮附屬器炎47.4%、子宮内膜筋層炎13.0%、慢性又は亞急性腹膜炎12.7%、子宮後傾屈症10.6%。子宮發育不全及び子宮萎縮8.2%である。

全症例中、子宮腔部結核11例、腔及び子宮腔部結核2例、頸管内膜結核3例があつた。入院133例中26例は「ラ」又は「レ」照射、開腹手術は94例で、その約半數は附屬器剔除、約1/4は子宮剔除で、約1/4は試験開腹に終り、手術による一次死亡3例、糞瘻1例を生じた。

入院後、豫後の判明した97例中、開腹群の豫後良なる者82.3%、非開腹群の良は64.2%であるが、3年後の豫後を見ると、開腹群の豫後は73.0%となる。

組織鏡検での陽性率は73.4%で、培養検査は改良法以